

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立白沢小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	39人	国語B	39人
② 算数A	39人	算数	39人
③ 理科	39人		

5 留意事項

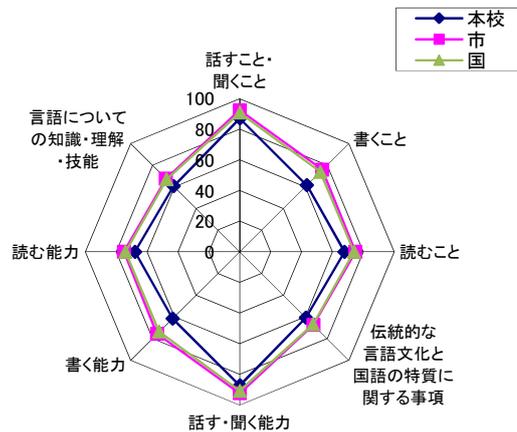
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

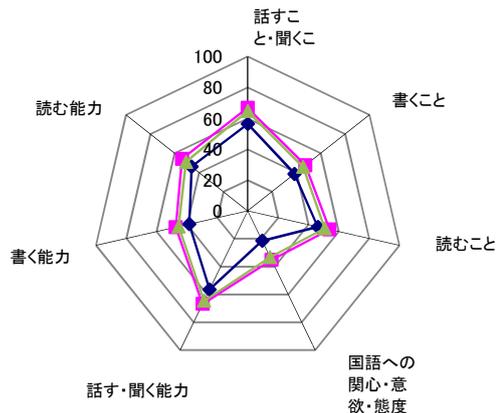
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	87.2	92.4	90.8
	書くこと	61.5	75.7	73.8
	読むこと	67.9	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.6	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	87.2	92.4	90.8
	書く能力	61.5	75.7	73.8
	読む能力	67.9	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	60.6	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	56.4	66.8	64.6
	書くこと	38.5	47.4	45.6
	読むこと	46.2	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	21.4	35.2	33.2
	話す・聞く能力	56.4	66.8	64.6
	書く能力	38.5	47.4	45.6
	読む能力	46.2	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

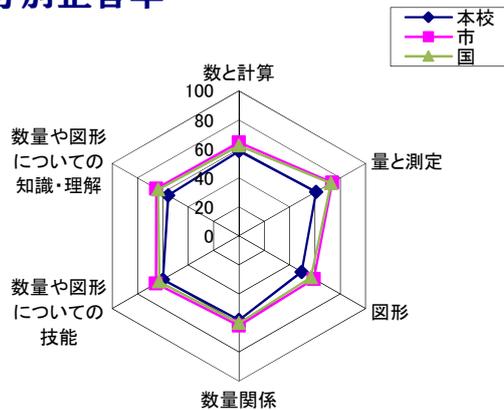
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>国語A、Bともに市の平均正答率を下回った。</p> <p>○計画的に話し合うために、司会の役割について捉える問題では、県平均を0.5ポイント上回った。</p> <p>●話し合いの参加者として、質問の意図を捉える問題では、県平均を7.3ポイント下回った。</p> <p>●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題では、県平均を15.1ポイント下回った。また、無解答率が25.6%だった。</p>	<p>・グループや学級全体の問題解決などに向けて、司会者や提案者、参加者などの役割を決めて話し合い、より一層豊かな相互交流を図ることができるようにする。互いの考えが相違する場合には、それぞれの考えがどのようなことに基づいているのかということに着目して話し合いを進めることができるようにする。</p>
書くこと	<p>国語A、Bともに市の平均正答率を下回った。</p> <p>○目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題では、県平均を7.0ポイント上回った。</p> <p>●目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題では、正答率が5.1%であり、県平均を8.0ポイント下回った。</p>	<p>・依頼状や案内状、礼状などの実用的な文章を書くときに、書く相手や目的を明確にしなが、書く必要のある事柄を選んだり構成したりすることができるように指導する。合わせて表書きに宛て名や住所を正しく書くことや、後付けにおける署名と宛て名の位置関係などの、手紙の基本的な形式についても指導する。</p>
読むこと	<p>国語A、Bともに市の平均正答率を下回った。</p> <p>○物語の登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題では、県平均を8.0ポイント上回った。</p> <p>●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む問題では、県平均を14.9ポイント下回った。無解答率が30.8%だった。</p>	<p>・本や新聞、雑誌、インターネットなど様々なメディアから情報を得る際は、目的に応じて、中心となる語や文を捉え、必要な情報を見つけて読む能力を育成する。</p> <p>・物語だけではなく、さまざまな読み物にも興味をもつよう、読書を奨励したり、読む機会を設けたりする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>国語A、Bともに市の平均正答率を下回った。</p> <p>○相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題では、県平均を3.9ポイント上回った。</p> <p>●文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題では、県平均を27.5ポイント下回った。</p> <p>●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、3問中2問で県平均を下回った。</p>	<p>・漢字を習得させるために、学習した漢字を繰り返し書いて練習することのみならず、様々な場面で、漢字のもつ意味を考えさせながら、実際に文や文章の中で正しく使うことや、同音異義語に注意して使うことができるように指導する。また、語彙を拡充するために、国語科の学習だけでなく、他教科等の学習活動の中でも、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けさせる。</p>

宇都宮市立白沢小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

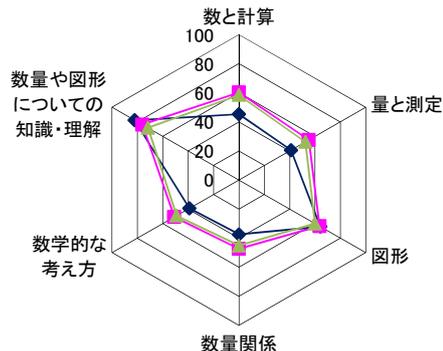
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	58.5	64.5	62.3
	量と測定	60.9	73.6	72.7
	図形	49.6	59.1	56.9
	数量関係	57.9	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	60.0	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	55.8	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	45.3	60.2	58.4
	量と測定	41.0	55.0	52.4
	図形	64.1	63.5	59.9
	数量関係	37.4	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	39.0	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	82.1	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

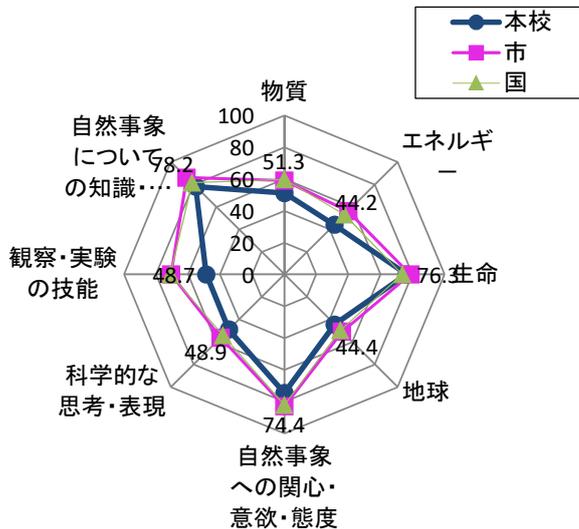
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	算数A、Bともに市の平均正答率を下回った。 ○除法で表すことができる二つの数量の関係についての問題では、県平均を5.2ポイント上回った。 ●小数の除法の意味についての問題では、県平均を6.6ポイント下回った。 ●十進法取り記数法で表された数の大小についての問題では、県平均を8.4ポイント下回った。	・整数や小数のみの基本的な乗法の計算の問題は、大部分の児童が正答できている。一方、実際に計算して答えを記述する問題には、県平均を大きく下回っているため、四則計算の決まりを復習し、理解を確実にさせていきたい。 ・小数と整数のかけ算や小数同士のかけ算を正確に計算できるよう、ドリルなどで反復練習を進めていく。 ・教科書の文章題を解いた後、文章題をアレンジしたものをを用いて指導し、立式や数字の表す意味を定着させる。
量と測定	算数A、Bともに市の平均正答率を下回った。 ●折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述する問題では、正答率が20.5%と低く、県平均を21.2ポイント下回った。無解答率が48.7%だった。 ●単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味についての問題では、県平均を6.0ポイント下回った。	・式について自分で説明する活動を増やす。 ・自分で考えたことを、主語を明確にして式や言葉で表す活動を増やし、友達との情報交換などで多くの表現を学び合う。 ・教科書の文章題を解いた後、文章題をアレンジしたものをを用いて指導し、立式や数字の表す意味を定着させる。 ・日常生活の様々な場面で、割合は用いられている。その意味を理解させるために、基準量と比較量、割合の関係を正しくとらえさせるようにする。特に、基準量は何かをはっきり意識させるようにし、図や式と関連付けて理解を深めるよう進めていきたい。
図形	算数Bは市の平均正答率を上回ったが、算数Aは下回った。 ○合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見い出す問題では、県平均を9.2ポイント上回った。 ●円周率の意味や、直径の長さや円周の長さの関係についての問題では、どちらも県平均を約6ポイント下回った。	・さまざまな正多角形や円についての復習を行い、応用問題への定着を図る。 ・新たな学習内容では、過去に学習してきた内容を具体物を用いて振り返り、素地的体験と知識を結び付けながら、指導に当たる。
数量関係	算数A、Bともに市の平均正答率を下回った。 ○棒グラフや帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断する問題では、県平均を2.8ポイント上回った。 ●メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する問題では、正答率が7.7%と、県平均を13.2ポイント下回った。無解答率が43.6%だった。	・問題場面的に捉え、式に表すことができるようにさせたい。そのために、簡単な場合で考えたり、自分なりの図を書くことによって読み取ったりする力を身につけさせたい。 ・日常生活の様々な場面で、割合は用いられている。その意味を理解させるために、基準量と比較量、割合の関係を正しくとらえさせるようにする。特に、基準量は何かをはっきり意識させるようにし、図や式と関連付けて理解を深めるよう進めていきたい。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	51.3	59.0	59.8
	エネルギー	44.2	56.4	53.1
	生命	76.3	78.6	73.6
	地球	44.4	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	74.4	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	48.9	56.1	54.1
	観察・実験の技能	48.7	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	78.2	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<p>市の平均正答率を下回った。</p> <p>○食塩を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く問題では、県平均を13.0%上回った。</p> <p>●ろ過の適切な操作方法を選ぶ問題では、県平均を21.8%下回った。</p> <p>●海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ問題では、県平均を20.5ポイント下回った。</p>	<p>・基礎事項の定着を図るために、既習の学習内容をよく復習し、確認してから授業を進める。系統的な学習をさらに充実させることが必要となる。</p> <p>・実験では、「予想→実験→結果および考察」という過程を習慣化する。</p>
エネルギー	<p>市の平均正答率を下回った。</p> <p>○回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ問題では、県平均を1.4ポイント上回った。</p> <p>●回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ問題では、県平均を25.4%下回った。</p>	<p>・学習したことを自分の言葉や文章で表現する習慣をつけることで、科学的思考及び表現力を高めるようにする。</p> <p>・授業においては、日常生活の事象と関連付けて予想を立てることを重視し、科学的なものの見方を高めていくようにする。</p>
生命	<p>市の平均正答率を下回った。</p> <p>○人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する問題では、県平均を13.0ポイント上回った。</p> <p>●野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ問題では、県平均を7.3ポイント下回った。</p>	<p>・理科の学習が好きな児童は多いが、学習内容が未定着な児童も見られる。そこで、内容を理解させるために必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための個別指導を繰り返す行う。</p>
地球	<p>市の平均正答率を下回った。</p> <p>●流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ問題では、県平均を15.7ポイント下回った。</p> <p>●流れる水の働きによる土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する問題では、県平均を6.7ポイント下回った。</p>	<p>・土地の浸食や堆積作用については、実験装置を使ったり、教科書を確認したりして復習を行うようにする。</p> <p>・実験を通して、自然事象に対する科学的な考え方を養うよう指導する。</p>

宇都宮市立白沢小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分によいところがあると思う」と肯定的回答した児童の割合が県平均を1.6ポイント上回っている。その中で「あてはまる」と回答した児童の割合は県平均を6.6ポイント上回っており、自己肯定力が高いと言える。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の回答で肯定的回答した児童の割合が県平均を1.9ポイント上回っている。児童や教師が授業や帰りの会などで良いところを賞賛し、認め合う活動が成果としてあらわれている。今後もお互いに認め合う活動を継続していきたい。

○「算数の勉強は好きですか」に肯定的回答した児童の割合が県平均を7.3ポイント上回っている。また、「算数の授業で難しい問題に出合ったとき、それを解いてみたい」と肯定的回答した児童の割合が県平均を2.6ポイント上回っていることから、算数に対して前向きな考えを持つ児童が多い。授業の中でペアやグループなどによる学び合い活動を取り入れることによって、児童の自信につながっていると考えられる。今後も児童間の認め合いなどに重点をおいた授業展開を行っていききたい。

○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的回答した児童の割合が県平均を7.0ポイント上回った。「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童の割合は県平均を11.3ポイント上回った。その背景には総合的な学習の時間の中の本校独自のくすのきプランの授業により、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会が多くあったためと思われる。今後も地域との連携を図りながら、地域の良さをさらに知る機会を授業の中に取り入れていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」の質問に「10分より少ない・全くしない」と回答した児童の割合が県平均を29.3ポイント上回っている。今後も読書の魅力を児童に伝えるために、図書委員会による読み聞かせや学校図書館司書による情報提供などを行い、読書の定着、興味・関心の向上につなげたい。

●「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した児童の割合が97.5%と高かったが、県平均を0.3ポイント下回っている。道徳の授業や校内でいじめゼロ運動やふわふわ雲などの啓発活動を通して、相手の気持ちを考える活動を行ってきたが、今後も継続していきたい。

宇都宮市立白沢小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の確認・充実 ・自分の考えや意見を伝え合う活動の実践 ・家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を板書し、ノートにもまとめるよう指導している。 ・自分の考えを言葉や文章でまとめたり、友達といろいろな形態（ペア・グループ・全体）で学び合ったりする場面を設定している。 ・「家庭学習の手引き」などを活用し、宿題以外にも自分で考えた学習をするよう指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ノートを分かりやすく書いている」と回答している児童の割合が多い。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と感じている児童が多い。 ・家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている児童の割合が、県平均とほぼ同じだった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
課題を読み、自分の考えを文章によって表現する問題で、正答率が低い。無答率も高くなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取る力を身に付ける。 ・自分の考えを、文章で表現したり、まとめたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取る力が身に付くよう、音読を行ったり、読書を奨励したりする。 ・自分の考えや分かったことを、文章で表現したり、まとめたりする活動を意図的に行う。